

最先端経済学

理論物理学者 博士(理学)

澤山晋太郎

ゲーム理論

量子力学で有名なフォン・ノイマンが今から60年ほど前に始めた理論。

将棋や囲碁のようなゲーム(経済活動)を分析するための数学。合理的な人間を仮定して、人間がどう行動するかを分析するツールである。主に2009年の世界恐慌まで経済学の主流であった。ナッシュがゲーム理論の解は一つしかないという定理を出している。

ゲーム理論2

ゲーム理論によると、合理的な人間は自由にしていると最大多数の最大幸福が得られる。つまり、功利主義で最もメリットが得られるという重要な定理がある。それによって新自由主義が進められてきた。ただし、政治学上の新自由主義はただの自由主義であって、この十年間くらいの新自由主義は人間の社会権を奪うようなものであった。ただし、その定理も世界恐慌によって失敗だと分かるようになった。

ゲーム理論3

ゲーム理論では人間は合理的な行動をすると仮定されているが、そこが間違っているという意見もあるし、人間の非合理性を入れた経済学を行動経済学という。

例えば、必要のないオタクグッズを集めたり、ブランド物を買うのはその最たる例であるし、資本主義が発展して、そのような過剰な資本主義になることはヴェブレンによって予測されていた(有閑階級の理論)。

資本主義は続くのか

ゾンバルトが言うに、人間に欲望があるかぎり
資本主義は続く(恋愛と贅沢と資本主義)。し
かしながら、資本主義の反動で社会主義にな
ることもある。東欧や北欧、または旧ソ連など
がその最たる例である。現在は全世界で社
会主義運動が起こっている。

グローバル化

今までグローバル化を推し進めてきたものは、比較優位の原則である。

簡単に言うために、日本とアメリカしか貿易していなくて、飛行機と米だけを作っていると仮定する。この時にアメリカは絶対的に優位になると思うかもしれないが、飛行機と米の値段の比率はアメリカのほうが大きいので、アメリカは飛行機で優位になって、日本は農業で優位になる。こういうのを比較優位という。

比較優位

グローバル化は比較優位の原則にそって進められてきた。それを日本に当てはめると、日本は自動車だけ作っていればいいことになる。電子機器は韓国が作っていればいいことになり、日本の電子機器メーカーは追い詰められている。また、アメリカはネットビジネスや金融だけやっていればいいことになる。つまり、グローバル化によって儲かる産業と儲からない産業の明暗が非常に分かれる。

グローバル化の弊害

アメリカは前にメキシコとFTA(自由貿易協定)を結んでいる。その時に分かったことであるが、あまり教育されていない人の仕事がアメリカ人から奪われて賃金の安いメキシコ人がそのような仕事をやるようになった。日本でも同じようなことがあって、工場を中国やタイに作ったりしたり、中国人労働者を働かせるようになって、あまり教育されていない人から仕事が奪われるようになった。

グローバル化と二極化

あまり教育されていない人から仕事を奪って、産業の明暗が分かれるので、貧富の差が拡大するようになっている。日本でも二極化が起こっているし、全世界で貧富の差が拡大して、デモや暴動が起こっている。ちなみに、ジニ係数という貧富の差を数値にするものを見ると日本の貧富の差はアメリカよりも大きいようになっている。

グローバル化と共産主義

もしも、このままグローバル化が進むと世界が統一されることもある。それは全世界同時革命の過程の一つでもある。

グローバル化と世界経済

グローバル化によって全世界の経済はつながるようになってしまった。例えば、ギリシアが破綻すると、全世界に飛び火して、全世界が大恐慌になる危険性がある。株価や為替が全世界を繋ぐようになってしまった。これによってドミノ倒しのような現象も起きるようになる。

ブロック経済

現在の日本はとても鎖国できないが、ブロック経済ならできる。そして、それが世界大恐慌を防ぐ手段だったりする。TPPはブロック経済の一種だと思っている。

今後の世界経済見通し

ギリシア情勢や、ヨーロッパ諸国の情勢を見ているとユーロ圏から離脱する国がありそうである。金融危機は後数年は続きそうである。後は日本やアメリカの財政も危ない。全世界で貧富の差によってデモや暴動が起こっているのを見ると、世界はそのうち社会主義化するのではないかと思っている。政治は民主制で、経済が社会主義になると思っている。